山形県鶴岡方言のアスペクト

佐藤　亮一　　篠崎　晃一

Ⅰ．はじめに

（１）　調査対象地：鶴岡市旧市内

鶴岡市は山形県西部（庄内地方）に位置する城下町である。人口は１０万８４２人（１９９４年7月３１日現在）。酒田市とともに庄内地方を代表する都市である。方言区画的には本土方言の中の東部方言、その中の東北（奥羽方言）、その中の北奥方言に属する。なお、山形県内陸部（山形市など）は南奥方言に属し、両者の方言的性格は大きく異なる。庄内方言内部の地域差では北部（酒田市など）と南部（鶴岡市など）の差が目立つ。両者の違いは語彙と文法に関していちじるしく、アスペクトに関しても同様である。

鶴岡市は国立国語研究所が１９５０年以来ほぼ２０年おきに社会言語学的な観点からの継続調査（ことばの定点観測）を行っていることでも知られている。本稿では国立国語研究所（１９９４）にしたがって、旧鶴岡市内の方言を「鶴岡方言」、町村合併後の新市域を含む方言を「鶴岡市方言」と呼びわける。

なお、担当者が昨年まで記述の対象とした三川町は鶴岡市に隣接し、方言的特徴は酒田市よりも鶴岡市と共通する部分が大きい（ただし、三川町の東郷地区＝成田新田などは酒田市方言と共通の部分もある）。

（２）　調査年月日時：１９９４年8月7日１４時～１７時

（３）　話者：田村和子氏

１９３０年生まれ。鶴岡市家中新町在住。旧鶴岡市以外の居住歴なし（０歳～２５歳鳥居町、新海町に4年、若葉町に１年、以後家中新町。いずれも鶴岡市の中心部）。職歴は公務員。父親は東田川郡藤島町生まれ（幼少のときに鶴岡市に移住）。母親は鶴岡市大山（新市内）生まれ。夫は旧鶴岡市（鶴岡市日枝）生まれ。

（４）　調査者：佐藤亮一　篠崎晃一

（５）　調査場所：話者自宅

（６）　表記：音声は片仮名による簡略音声表記を用いる。ガ行鼻音（鼻濁音）は「ガギグゲゴ」で表す。アクセントは高く発音された音節（＝シラブル。伝統的な鶴岡方言はシラビーム方言とみなされる）の上に線を引いて示す。この方言ではアクセント核のある音節が高く発音されるが、イントネーションが加わって高くなることもある（新田１９９４）。本稿では、両者の「高」を区別せず表記する。

（７）　調査・執筆の分担：調査票の質問・記録・記述に関しては、項目１～５０は篠崎

が行い、５１～１００は佐藤が行った。ただし、調査の場には両人が同席し、適宜質問を補充した。「１．はじめに」および「Ⅲ．まとめ」は佐藤が執筆した。

Ⅱ．調査結果

1．（昔は）よく行ったものだね　①ヨグイッタッケノー／②ヨグイッタモンダッケ（ドモ）ノー（今は行かないというニュアンスが強い。）
2．（あのころは）おもしろかったなあ　オモシェッケノー
3．（もうちょっとで）落ちるところだった　オジルトコダッケノー
4．（今にも）落ちそうだよ　①オジソーナッタ（ズー）／②オジソーダッチャヤー
5．（財布を）落として　オドシテシマッテ
6．困っている　①コマッテンナスヤー／②コマッタオラー
7．（一本の蠟燭が今にも）消えそうだよ　キエソーダ（ズー）
8．（今）消えようとする　キエットゴダ
9．（完全に）消えた　①キエデシマッタ／②キエダ
10．（すでに）消えていたよ　キエッダッケー（ズー）
11．（何本もの蠟燭が順に）消えはじめた　キエハジメダ
12．（何本もの蠟燭が次々）消えていくなあ　キエデイグナダノー
13．（何本もの蠟燭が順に）消えているよ　キエデイグナダノー
14．（何本もの蠟燭が全部）消えているよ　キエッダッケー
15．（何本もの蠟燭の火を次々）消しているよ　ケシッタドゴダ
16．（もう全部）消しているか　ケシテアッカ（ケシッタカは、今消しつつあるかどうかという意味になる。）
17．（今にも桜が）散りそうだ　チリソーダ
18．（ちらほらと）散り始めた　チリハジメダ
19．（今現に）散っている　チッタ
20．（桜の木がすっかり）散っている　チッテシマッタノー
21．（地面一面に）散っている　チッタ
22．今にも降りそうだ　フリソーダノー
23．（あの時は今にも雨が）降りそうだったなあ　フリソーダッケ（モノ）ノー
24．（あの時はもう実際に雨が）降っていたよ　フッタッケチャヤー
25．（あの時はやがて夜が）明けようとしていたよ　①アゲットゴダッケノー／②アゲットゴダッケッチャヤー
26．（来年の今ごろは家を）建てている　タデデルドゴダ

27. （来年の今ごろは家をすでに）建てている　タデオワッテル
28. （あの家はよく）磨いてある　ミガイデアル
29. （隣の犬が）鳴いている　ナイッダ
30. （隣の子が）泣いている　ナイッダ
31. （こどもたちが）喧嘩している　ケンカシッタ
32. （家に）いるかなあ　イッカノー
33. （○○さん）いるか　イッダー
34. （ああ）いるよ　イッダ
35. （そういう人も）いるよ　イルノー
36. （あなたは今何を）していたか　①シッター／②シッタヤー
37. （私は今金魚を）見ていたよ　①ミッダドゴダ／②ミッダ
38. （金魚が今にも）死にそうだ　①シニソーダナシヤ／②シニソーダ
39. （やっぱり金魚は）死んでいたよ　シンダッケー
40. 読み始めていた　ヨミハジメダドゴダナシヤー
41. 読み始めたところへ（～た）　ヨミハジメダドゴサ
42. 着くと同時に～した　ツイダバ
43. 着くと同時に～してくれ　ツイダラスグ
44. 鳴りつづけている　ナリッパナシダ
45. （先生は今何を）しているか　ナニシテマシタ
46. 好きだ　スキダ
47. 見られているのも　ミラエテンノモワカンネデ
48. （今、運動会が）ある　①ヤッテル／②シッタッケ
49. （降らなくて）よかったよ　ヨガッタノー
50. （先生がこっちへ）来つつある　クッドゴダ
51. （犬がこっちへ）来つつある　①クッドゴダ／②キタキタ（①は客観的叙述　②は期待していることが実現したことを表す情意的表現）
52. 似ている　①ニッダ／②ニッデル
補 1. （死んだ太郎は父親に）似ていた　ニッダッケ（ニッダ→×）
補 2. （父親に）似ていた（太郎）　①ニッダ／②ニッデダ
53. （一週間も前から遊びに）来ている　①キテル（「キテンナスヤ」と表現することが多い）／②キッタ（「キッタナスヤ」と表現することが多い）
54. （昔から）苦労していない　クローシテネー
55. （今はあまり）苦労しないでいる　クローシテネー（「クローシネデイル」という言い方は不自然）
56. ～は売っているが、～は売っていない　（タバゴダバ）ウッテンドモ（キモノワ）

ウッテネー

57. （昔からタバコを）売っている　①ウッテル（「ウッテルッケ」「ウッテンナダッケ」「ウッテアンダッケ」などと表現することが多い）／②ウッタッケ（ウッタ→×。なお、「（昔はタバコを）売っていた」も「ウッタッケ」と言う）

58. （今、大売り出しで衣料品を）売っている　①ウッテル／②ウッタッケ（ウッタ→×）

補 3. （今タバコを売っているか」と聞かれて）「たぶん売っているよ」　ウッテル（ウッタッケ→×　ウッタ→×）

補 4. （探していた品物を店で見つけて）「あ！売っている！」　ウッテル（ウッタ→？）

補 5. （あの店では昔タバコを）売っていた　①ウッタッケ（多）／②ウッテダ

補 6. （昔タバコを）売っていた（あの店）　ウッテダ

59. （もう3回）来ている　キテル（「キテンナ（スヤ）」と表現することが多い。キッタ→×）

60. （いつも）来ている　59に同じ

61. （昔はいつも）来ていた　①キッタ（「キッターダ」と表現する）／②キテダ（「キテターダ」と表現する）

62. （前に一度）行っている　イッタコドアル

63. さきに行っておいてほしい　サギイッテデ（ケネ）＝さきに行っていて（くれない？）

64. 待っていなさい　①マイデレバイー／②マイデレ（ヨ）／③マッテレ（②③は①より強い命令表現）

65. （外に）待たせてあるよ　①マダシェテル／②マダシェッタ

補 7. （娘は外で）待っている　①マイデル（多）／②マッタ

補 8. （外で）待っている（娘）　マイデル（マッタ→×）

補 9. （外で）待っていた（娘）　マイッタ

66. 食べておいてくれ　①ステデデ（ケネ・クレ）／②タベデデ（ケネ・クレ）　（①の方を多く用いる）

67. （昔と）違っている　チガッテル

68. （昔は今のと）違っていた　チガッタッケ

補10. （服装が今と）違っていた（明治時代）　チガッタ

69. （毎日梅干しを）食べている　①タベデル／②クテル／③タベッタ／④クッタ

補11. （昔は毎日梅干しを）食べていた　クッタ（クッテタ→？）

補12. （毎日梅干しを）食べていた（あの頃）　クッタ（クッテタ→？）

70. （毎朝）している　①シテル／②シッタ

71. 気をつけていて（～した）　キオツケデデモ（「モ」がはいらないと不自然）

72. 行ったまま～　①イッタマンマ／②イッタママ

73. ～しながら　（ハナシ）シナガラ

74. ～の途中で～する　（ガッコサ）イグトジュー

75. ～の途中で～した　74に同じ

76. ～の途中で止めて～した　（ホンヨム）ナトチューデヤメデ

77. ～したばかりだ　ヨンダバッカリダ

78. 無くなっている　ナグナッテル

79. 無くなるぞ　ナグナンゾ

80. 書けておいた帽子　カゲデオイダボーシ（カゲトイダボーシ→×）

81. 並んだ本　ナランデルホン

補13.（子どもたちが一列に）並んでいる　①ナランデル／②ナランダッチャヤ

82. 並べた本　ナラベッダホン

83. ～しておこうか　ヨンデオグガ

84. やってあるか　①シテシマッタガ／②ヤッテシマッタガ

85. 壊している　①ボッコシテル／②ボッコシッタ

86. 壊れている　①ボッコレッダ／②ボッコレデル

87. 壊されている　ボッコサエッダ

88. のけてある　ヨゲデアル

89. 書き終わった　カギオワッタ

90. 書いてしまいなさい　カイデシマエ

91. 書いてしまう　カイデシマウ

92. 書いてみた　カイデミダ

93.（孫は今）入院している　①ニューインシテル／②ニューインシッタ

94.（弟も今）入院しているそうだ　①ニューインシテッド／②ニューインシテンナダド／③ニューインシッタド

補14.（去年の今ごろは入院）していた　シッタ

補15.（去年入院）していた（病院）　シッタ

95.（きっと）よくなるよ　ヨグナルヤ

96.（だんだん）よくなるよ　96に同じ

97. 歳をとるとね　①トシトッド／②トシトッテグッド

98. なおらなくなるよ　ナオラナグナッテイグンダノー

99.（1）（犬が）怪我をしたので　ケガシタンダハゲ（ン＝［m］。「ハゲ」は「サゲ」とも言う。「～ンダハゲ＝～mdahage」は、ていねいに意識して発音すると「～モンダハゲ」となることもある）

（2）（こどもが）怪我をしたので　（1）に同じ

（3）（お父さんが）怪我をしたので　（1）に同じ

100.　（１）「雨が降りつつある」→Ｃ＝降っている最中

（２）「貯金が増えつつある」→Ａ＝少しずつ増えようとしている

（３）「貯金を増やしつつある」→Ｂ＝増やそうとして少し貯金をし始めた

補16.（金魚が）死んでいる　①シンデル／②シンダ

補17.（金魚が）死んでいた　シンダッケ（シンデダ→×）

補18.（道路で）死んでいた（犬）　①シンデダ／②シンダ（シンダッケ→×）

補19.（あの家には娘が３人）住んでいる　スンデル（スンダ→×）

補20.（あの家には娘が３人）住んでいた　①スンデダ／②スンダッケ

補21.（娘が３人）住んでいた（あの家）　スンデダ

Ⅲ．まとめ

ここでは、佐藤が調査・記述を担当した項目５１以降を中心に述べる。

１．鶴岡方言では、継続相について、次の３形式が認められる。渋谷1994にしたがって、これらを、それぞれ、「テイル形」「テイタ形１」「テイタ形２」と呼ぶことにする。

	テイル形	テイタ形１	テイタ形２	参考（タ形）
書く	カイデル	カイデダ	カイッダ	カイダ
売る	ウッテル	ウッテダ	ウッタ	ウッタ
住む	スンデル	スンデダ	スンダ	スンダ
死ぬ	シンデル	シンデダ	シンダ	シンダ
食う	クテル	クッテダ	クッタ	クッタ
来る	キテル	キテダ	キッタ	キタ
為る	シテル	（シテダ）	シッタ	シタ

（かっこの中は今回の調査で使用を確認できなかった形式）

上の例に見られるように、「売る」「住む」「死ぬ」「食う」などはタ形（完成相の過去形）と同形である。

項目５１以降に見られた主な動詞について、継続相の現れ方を、「非過去」と「過去」に分けて示す。

次ページの表で、かっこ内の数字は項目番号、「×」はその語形を用いないと話者が答えたこと、「？」はその語形を用いるかどうか話者がまよったことを示す。また、語形全体がかっこに入っている場合はその語形を用いる項目が認められなかったことを示す。アンダーラインを付けた項目はその語形が連体節の中で用いられていることを示す。

	テイル形	テイタ形1	テイタ形2
来る（非過去） 来る（過去）	キテル(53.59.60)	キテダ（61）	キッタ（53） （59.60→×） キッタ（61）
売る（非過去） 売る（過去）	ウッテル（56.57.58 補3.補4）	ウッテダ （補5.補6）	ウッタッケ（57.58） （補3→×） （ウッタ　57.58.補3→× 補4→？） ウッタッケ（補5）
似る（非過去） 似る（過去）	ニッデル（52）		ニッダ（52） ニッダッケ（補1） ニッダ（補2）（補1→×）
待つ（非過去） 待つ（過去）	マイデル（64.補7） マッテル（64）		マッタ（補7）（補8→×） マイッタ（補9）
違う（非過去） 違う（過去）	チガッテル（67）		チガッタッケ（68） チガッタ（補10）
食べる／食う （非過去） 食べる／食う （過去）	タベデル（69） クテル（69）	クッテタ（補11 補12.→？）	タベッタ（69） クッタ（69） クッタ（補11.補12）
する（非過去） する（過去）	シテル（70.93）		シッタ（70.93） シッタ（補14.補15）
死ぬ（非過去） 死ぬ（過去）	シンデル（補16）	シンデダ （補18） （補17→×）	シンダ（補16） シンダッケ（補17） （補18→×）
住む（非過去） 住む（過去）	スンデル（補19）	スンデダ （補20.補21）	（スンダ　補18→×） スンダッケ（補20）

以上の調査結果から次のことが指摘される。

※継続相の非過去には「テイル形」および「テイタ形２」が用いられる。ただし、項目（意味）によっては「テイタ形２」を用いることができない場合がある（「テイタ形」を用いることができないのは「タ形」と同形になる動詞の場合が多いようでもあるが、例外もあり、今後の課題である）。

※継続相の過去には「テイタ形１」および「テイタ形２」が用いられるが、「テイタ形２」の方が多用される。ただし、この点に関しては個人差も予想され、今後の課題である（注）。

※「テイタ形２」の中の「～ケ形」（ウッタッケなど）は過去と非過去の両方に用いられるが、過去の場合が多い。この「～ケ形」は話者が過去に得た知識や体験を他人に披露する場合などに用いられる。したがって、項目「補4」のような眼前の事実の表現には用いられない。

※「～ケ」形は連体節の中では用いることができない。

※過去の連体節には「テイタ形１」と「テイタ形２」が用いられる。

※「テイタ形１」は過去の連体節に用いることが多いようでもあるが、例外もあり、今後の課題としたい。

参考文献

井上史雄（1994）「鶴岡方言の位置」（国立国語研究所『鶴岡方言の記述的研究』）
渋谷勝己（1994）「鶴岡方言のテンスとアスペクト」（同上）
新田哲夫（1994）「鶴岡方言のアクセント」（同上）

注：渋谷1994に＜「テイタ形１」と「テイタ形２」では「テイタ形２」を多用するようであるが、年齢差などによるバラツキが観察される＞とある。

（さとう　りょういち　　東京女子大学現代文化学部）
（しのざき　こういち　　東京都立大学人文学部）